

## 「松子十句」をお送りします

城内高校 11 期生 瀬戸(旧姓:相田)松子

久しくお目にかかっていない間、小田高 11 期生の皆様は如何お過ごしのことかと心配していたのですが、先日は佐々木洋さんよりタイミングよく、こゆるぎ座の「唐人お吉」の観劇にお誘いいただき有難うございました。「唐人お吉」についてはラシャメンと言われ貶まれた女の生涯を描いたものとして、何とはなしに知っておりましたが、帰宅してからパソコンで検索したところ、当日のお芝居には虚実ないまぜになっているところがあるということが分かりました。しかし、久しぶりに芝居を観て楽しい一時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

私は城内高校の文芸部長でしたので小田高の文芸部長をされていた青木三郎さん(3 組)との交流はあったのですが、根岸幸子さんのお誘いを受けて小田高 11 期生会の活動に顔を出すうちに多くの小田高 11 期生とお知り合いになり、“新小田原高校”同窓生になれたような気分になれたのが幸せなことでした。殊に、家が近かったため幼馴染感覚をもっていた榮憲道さん(6 組)と久しぶりに再会し、そこから和歌・俳句・川柳の五七五仲間入りをさせていただき、榮憲道さんが主導されていた「俳句、川柳、短歌、初心者塾」創りに僅かながらでも尽くさせて頂いたのが特に幸せなことでした。

しかし、あの元気で活発だった小田高 11 期会が突然解散となり、榮憲道さんのお手伝いをして私たちが創りあげた「俳句、川柳、短歌、初心者塾」もメンバーが一堂に会することもなくそのまま廃絶してしまったとお聴きしてとても残念な思いがしました。せめて、手作りの「松子十句」をお送りして、今後とも小田高 11 期生ホームページ(Web11)上にてご交誼くださいますようお願いいたします。皆さま方からの五七五作品が寄せられますよう楽しみにしています。

### 松子十句

- 街角の易断(うらなひ)の灯や冬の霧
- 甲板に聴くK-POP春の航
- 碇泊の客船白き朧かな
- 絵踏みして海の蒼さを恐れけり
- 野を焼きて暮るる奥嶺や一つ星
- 恋猫や屋台の並ぶ路地明かり
- 石垣に積もりし時間卒業す
- 暮れかねる海の紫紺や人麻呂忌
- 鍵盤に少年の指花ミモザ
- 城跡の赭(あか)きつちくれ櫛子(しどみ)咲く